

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「麦作情報（第4号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第4号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況（白石町のアメダスデータ）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
2月	4	6.4	5.9	-0.5	11.7	11.1	-0.6	1.5	1.3	-0.2	16.2	12.0	74%	22.7	24.4	107%
	5	6.8	10.0	3.2	12.0	15.5	3.5	1.9	3.0	1.1	16.1	18.0	112%	22.5	39.8	177%
	6	7.1	9.1	2.0	12.3	12.7	0.4	2.2	3.6	1.5	9.4	14.0	149%	13.5	7.9	59%

2月4~6半旬でも高温多雨な天候が続いている。

平均気温は平年より1.6 高く、降水量は平年比112%、日照時間についても平年比114%であった。

2. 麦類情報田の生育状況（調査日：3月3日）

・暖冬で経過したため生育が早く進んでおり、11月中下旬に播種された小麦では8~9葉期となっている。また、大麦で12月上旬に播種された圃場では、現在8~10葉期を迎えている。ほとんどの圃場で茎立ち期を過ぎており、生育が2~3週間程度早く経過している。出穂期も平年より早まり3月下旬頃となる見込まれ、特に早く播種された大麦や裸麦では3月中旬に出穂が見込まれることから、赤かび病防除の準備を早めに行う。

・長雨の影響で排水性が悪い圃場では湿害による葉の黄化や生育抑制がみられる。

品種		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD値)	備考
シロガネコムギ (11月23日播種)	本年値	46.2	786	8.6	42.3	・草丈は平年よりかなり高い。 ・茎数は平年よりかなり多い。 ・葉齢は平年に比べ2.7葉進んでいる。 ・葉色は平年に比べやや薄い。
	過去5カ年平均値	19.2	613	5.9	43.9	
	対比	(240%)	(128%)	(+2.7)	(-1.6)	
	農試参考値	55.0	709	8.6	-	
	農試平年比	(189%)	(94%)	(+1.3)	-	
サチホゴールデン (11月30日播種)	本年値	40.1	1030	9.4	38.8	・草丈は平年よりかなり高い。 ・茎数は平年並み。 ・葉齢は平年に比べ2.9葉進んでいる。 ・葉色は平年に比べかなり薄い。
	過去5カ年平均値	20.6	1029	6.5	45.5	
	対比	(195%)	(100%)	(+2.9)	(-6.7)	
	農試参考値	34.0	924	8.0	-	
	農試平年比	(198%)	(102%)	(+1.8)	-	

参考は農試作況の3月2日調査データ（播種日はシロガネコムギ：11/20、サチホゴールデン：12/10）

今年のサチホゴールデンは播種後の降雨の影響で出芽がやや遅れた。

3. 今後の管理

(1) 施肥

今年度は断続的な降雨が続いている影響により肥料分の流亡が多く、小麦・大麦ともに葉色が薄い圃場が多く散見されます。

・穂肥

穂肥を施用していない圃場では、**すみやかに**地区栽培暦に基づき穂肥を基準量施用しましょう。茎立ち（節間長 2～3cm）を過ぎている圃場では、麦踏すると節間が折れて減収するため、麦踏機による施肥は避けて、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

・穂揃い期追肥

シロガネコムギで葉色が極端に薄い圃場では、子実のタンパク質含有量が基準値を満たさないことが懸念されるので、下表を参考に穂揃期追肥を実施しましょう。

穂揃い期追肥を尿素葉面散布で行う場合、赤かび病防除との同時処理を行っても薬剤の効果に影響はありません。

大豆作後であっても葉色が薄い場合は必ず穂揃期追肥を施用してください。

表：穂揃期追肥の目安

品 種	SPAD 値	群落葉色（葉色板）	窒素成分（kg/10a）
シロガネコムギ	40 以下	3.8 以下	2.0(BB602 で 12.5kg) (硫安で 10kg)

(2) 排水対策

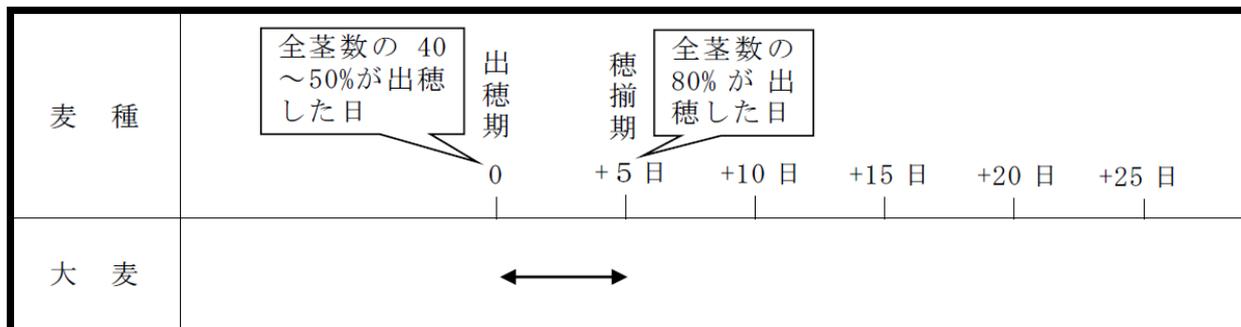
降水量が多くなっており、溝に水が溜まっている圃場も見られるので、排水口や暗渠を活用して排水に努めてください。排水口と畦溝がつながっておらず、退水が悪くなるケースがあるので、枕部を横断するように退水路を設ける。また、場合によっては排水口を増設するなど環境を整えてください。

(3) 病害虫防除

大麦網斑病：今年は高温多雨で推移しているため、網斑病の発生が目立つ圃場が見受けられます。発生圃場では出穂期～穂揃い期にチルト乳剤又はワークアップを散布してください。もし、出穂期より早い時期から発生株が多発生し、病斑が上位葉に進展している場合は、出穂期前でも防除を実施してください。

網斑病は病斑が上位3葉まで上がってきた場合、大幅な品質低下と減収を引き起こします。

網斑病の防除適期



注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期

赤かび病：麦の品質や食の安全性の確保を図るため、適期防除の徹底が重要。

発病抑制と毒素(DON)低減効果の面から下記を参考に実施してください。

大麦はるか二条については 2 回防除が基本となります。もし、網班病と同時防除する必要のある圃場では穂揃い期と葯殻抽出期に 2 回防除を行ってください。

赤かび病の防除適期

麦種	予想される赤かび病の発生量	日数							
		全茎数の40～50%が出穂した日	出穂期 0	穂揃期 +5日	全茎数の80%が出穂した日 +10日	+15日	+20日	+25日	+30日
小麦	小～並発生			開花期					
	並～多発生								
大麦	小～並発生					葯殻抽出始め			
	並～多発生								

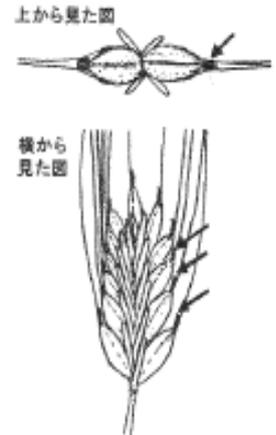


図 大麦の葯殻抽出 (矢印の部分)

注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。